

平成29年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第2回第一分科会
開催日時	平成29年7月6日(木) 午前10時から12時まで
開催場所	葛飾清掃工場
出席者	【委員6人】 大石会長、安藤委員、河角委員、千田委員、堀切委員、望月委員 【欠席1人】 大山委員 【区側8人】 事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員2人) リサイクル清掃課(リサイクル清掃課長、ごみ減量推進係長、担当職員2人)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認)

2 現場視察

(リサイクル清掃課より、葛飾清掃工場において、フェア当日のイベント内容等について説明)

A委員 : 雨天時には、ブースの出店は中止となるのか。

リサイクル清掃課 : 管理棟正面ゾーンの体験コーナーでは一部中止となるものもあるが、飲食ブースや休憩スペースにはテントが張られているため、雨天時でも出店が可能である。

B委員 : 区内の集積所で収集されたごみは全て、こちらの清掃工場に搬入されているのか。

リサイクル清掃課 : 区では、燃やすごみ、燃やさないごみ、資源、プラマークに分別して収集しているが、こちらの清掃工場に搬入されるのは、燃やすごみのみであり、燃やさないごみや資源、プラマークについては別の施設に搬入している。また、23区内には21の清掃工場があり、収集した可燃ごみは近接の清掃工場に搬入されていること

から、足立区や荒川区で収集された可燃ごみの一部もこちらの清掃工場に搬入されている。

C委員 : パンフレットに、資源回収の日に出すことでごみの減量につながるとの記載があるが、どのような意味か。

リサイクル清掃課 : 資源として回収できるものを資源として回収することで、燃やすごみと燃やさないごみの減量につながるという意味である。資源はリサイクルすることが可能であるが、リサイクルするにもコストがかかるため、区としては、3Rのうち、そもそもごみを発生させないというリデュースを推進している。また、区内では年間約8万tの燃やすごみが発生しており、そのうち40%が生ごみである。生ごみの半分以上が水分のため、水切りをして捨てていただくことをお願いしている。水切りをして捨てていただくことで、焼却した後の最終処分量に変わりはないが、体積が減少するため、収集する清掃車の台数を減らすことができる。

C委員 : 過剰包装の減量は、業者へ啓発した方が効果的なのではないか。

リサイクル清掃課 : 包装紙は分別していただき、雑紙として回収している。燃やすごみの中には、約12%資源化できる紙が混入しており、まだまだ資源化はできるものと考えている。

A委員 : 商品を購入する際に、買う側が簡易包装をお願いすることも、リデュースにつながると考えて良いか。

リサイクル清掃課 : その通りである。

B委員 : 生ごみのディスポーザーが設置されているマンションもあるが、生ごみの減量に効果があるのか。また、一時期、ディスポーザーを使用すると水を汚すため、環境に負荷がかかると言われていたが、どうなのか。

リサイクル清掃課 : ディスポーザーを使用しても、清掃車に積み込む量は減るものの、焼却後の最終処分量に変わりはない。また、ディスポーザーで粉碎された生ごみは、汚水桝で沈殿するため、下水に直接流れ込むことはなく、水が汚れる問題はない。汚水桝の沈殿物は、下水処理場で水分と汚泥に分けられ、埋め立て処分される。

3 事務事業の概要説明及びヒアリング

(リサイクル清掃課より「ごみ減量・清掃フェアかつしか」の概要について説明した後、質疑応答、議論)

＜基本情報＞

質疑なし

＜実績情報＞

- A委員 : 成果指標は、25年度の来場者数5,000人を目標値に設定しているとのことだが、25年度に来場者数が多かった理由は何かあるのか。
- リサイクル清掃課 : 例年3,000人から4,000人の来場者がおり、25年度だけ来場者が多かった特段の理由は考えられない。
- 大石会長 : 3,000人から4,000人の来場実績があるのは、区内イベントとしては多い方なのではないか。また、フェア当日は、車で来場することは可能なのか。
- リサイクル清掃課 : 来場者の多くは地元住民であることを考えると、来場者数は多い方であろう。また、一般用の駐車場がないため、フェア当日の車での来場はできない。
- 大石会長 : 小・中学校にフェアのPRは行っているのか。
- リサイクル清掃課 : 学校側の各児童へのチラシの手間を考慮し、学校へはポスターの掲示をお願いしている。区としては、区ホームページや広報紙、広報掲示板を活用してフェアの周知を行っている。
- B委員 : 自治町会の回覧板では周知を行っていないのか。
- リサイクル清掃課 : 回覧板での周知は行っていない。10月に行っているごみ減量キャンペーンについては、広報掲示板での周知を行っており、その際にフェアの実施についても案内している。
- 大石会長 : 27年度は雨天のため来場者が減少したとのことだが、天候に左右されるところが大きいものか。
- リサイクル清掃課 : 屋外でのイベントが主であるため、どうしても来場者数は天候に左右されてしまう。

＜コスト内訳＞

- 大石会長 : 周知用ポスター等の印刷製本費が28年度は5万4,000円と少ないが、今後、ポスター等の印刷数を増やし、PRを拡大していく意向はあるのか。
- リサイクル清掃課 : 来場者アンケートの結果では、広報かつしかでフェアの存在を知った方がほとんどであった。区としては、広報紙の他、ツイッターやフェイスブックでフェアの実施を周知しているため、現在のところ、紙媒体でのPRを拡大する意向はない。また、自治町会の回覧板で周知するには、チラシを仕分ける作業が出てくること

から、町会側の負担となる可能性があるため、今後の検討課題と認識している。

大石会長 : 26年度の会場設営委託料は0円であるが、これは職員が設営を行っていたということか。

リサイクル清掃課 : 26年度までは、職員が会場設営を行っており、23年度まではテントも張っていなかった。

大石会長 : リユース食器の借り上げとはどのようなものか。

リサイクル清掃課 : リユース食器は、水元飯塚町会が出店している焼きそばの販売用に、貸出業者から借りて使用しているものである。区としては、リユース食器の存在を広くPRするとともに、イベントでリユース食器を使用する際の補助金制度のPRを兼ね、フェアで使用している。

C委員 : リユース食器とはどのようなもので、借りる場合はいくらぐらいのものなのか。

リサイクル清掃課 : 繰り返し洗って使用できる飲食容器であり、使用後は洗わずに宅配で返却することができる。28年度は、400食分程を借りて2万7,000円であった。

大石会長 : 人件費はこの程度で足りるのか。

リサイクル清掃課 : 足りている。

<今後の方向性>

D委員 : 今後、フェア自体を盛り上げていきたいのか、フェアの中でごみ減量や3Rの啓発を徹底していきたいのか。方向性をどのように考えているのか。

リサイクル清掃課 : ごみ減量や3Rの推進のため、フェア自体を盛り上げ、多くの方に来場いただきたいと考えている。その上で、ごみ減量や3Rの啓発を充実させていきたい。まずは、多くの方にフェアに来ていただくことが目標である。

D委員 : 来場者アンケートには、居住地を問う設問があるが、水元や金町等の清掃工場周辺の選択肢しかない。本フェアは、区全体ではなく、地元目線で展開している事業ということなのか。

リサイクル清掃課 : 昭和39年の清掃工場建設時から、地元の方には何らかのご負担をかけながら運営しているため、まずは地元の方に愛されるイベントとして定着させたいと考えている。フェア自体の魅力が増せば、自ずと全区的なイベントとなり、多くの方に来場いただけるのではないかと考えている。

- D委員 : 他区のイベントと比較すると、本区の来場者数 4,200 人は多い方ではないか。目標値を 5,000 人としているが、これ以上、来場者数が増えた場合、受け入れは可能なのか。
- リサイクル清掃課 : 現在は清掃工場の北側敷地のみで実施しているため、5,000 人以上の来場があると危険を伴う可能性もあるが、来場者の導線の確保や清掃工場との調整という課題はあるものの、現在使用していない南側の敷地でブースを展開することも可能であろう。
- 大石会長 : 区内外の可燃ごみをこちらの清掃工場で焼却していることを考えると、地元の方へ配慮するのは当然のことではある。しかし、区民のごみ減量・リサイクルの意識啓発と具体的行動への促進も本フェアの目的の 1 つでもある。そのため、一般駐車場を確保する等区全体からの来場者を想定した工夫をすることで、来場者数を拡大できるのではないか。
- リサイクル清掃課 : 清掃工場の南側敷地を活用する等工場全体を使って実施するイベントとして検討していきたい。
- D委員 : 来場者アンケートでは、「子ども向けのイベントを増やして欲しい」との意見があるとのことだが、子ども向けのイベントとしては、ヒーローものが人気であろう。ご当地ヒーローの「ゼロング」と分別ゲームをすれば、子どもたちの分別意識も高くなるのではないか。
- リサイクル清掃課 : 「ゼロング」に出演依頼することも可能であろう。
- D委員 : 清掃工場と聞くと、臭いがするのではないかと思っていたが、実際は広くてきれいであった。また、工場見学もでき、子どもも喜ぶイベント内容だと感じた。清掃工場に対する悪いイメージを払拭するためにも、フェア名に開催回数を記載し、開催実績をアピールするものの一つの手ではないか。また、フェア名称も、もう少し馴染みやすいものとしても良いのではないか。
- A委員 : 葛飾菖蒲まつりのように、フェア当日だけでも巡回するコミュニティバスを運行し、交通の便を改善できないものか。
- リサイクル清掃課 : こちらの清掃工場へは、JR金町駅とJR亀有駅から 2 路線バスが運行しているため、フェア当日にコミュニティバスを運行させるとなると、民業を圧迫しないよう配慮する必要がある。区内の遠方からも来場いただけるように、より魅力的なイベントにしなければならないと思っている。
- D委員 : 清掃工場の見学は、フェアに限らず、常時可能なのか。
- リサイクル清掃課 : 学校の授業での見学を実施しているとともに、一般の方向けの工

場見学も定期的に募集している。

D委員 : 工場見学に来た方に、フェアのPRを行うのも良いのではないか。

リサイクル清掃課 : 今後、検討したい。

D委員 : 今回、区内にこのような施設があり、来場者の多いイベントを実施していることを知り、イベントとして今後も続けてもらいたいと感じた。ただ、来場者数を増やしていきたいのか、それともイベントの内容を充実していきたいのかによって、イベントブースを増やすのか、駐車場を増やすのか、周知に力を入れていくのか、ボランティアにどのように関わってもらえるのか等、区としてどこに注力をしていくのかが変わってくるのではないか。フェアに従事しているボランティアはどのような人か。

リサイクル清掃課 : 日本大学の研究室の学生である。インターンシップを兼ねて、ボランティアとして協力をしてもらっている学生もいる。

D委員 : 高校によっては、ボランティアへの参加が単位取得になる場合もあるため、参加の働きかけをしてみてもどうか。社会貢献にもなるため、働きかければ人手も確保できるのではないか。

E委員 : 今後、ごみ減量や3Rの啓発に重点を置いていくのか、来場者数の増加に重点を置いていくのかによって、今後の事業展開が変わってくる。啓発に重点を置いていくのであれば、子どもたちにごみの焼却を間近で見ってもらうことはとても効果的であると思う。子どもたちに最終処分場が逼迫している現実を伝えるブースが足りないように感じるため、1階部分に啓発ブースを増やし、身近なこととして危機感を持ってもらえるようにしてはどうか。また、来場者数の増加に重点を置くのであれば、飲食ブースで集客することも効果的ではあるが、他のイベントでは音楽も集客に効果があると感じた。そのため、地元の一般バンドに声をかけ演奏してもらうことで、フェア自体が盛り上がり、集客につながっていくのではないか。

リサイクル清掃課 : 今年度は、地元の飯塚小学校にも演奏をお願いしようと考えている。その他にも地元には小学校があるため、今後、声を掛け、本フェアを地域の発表の場として活用してもらいたいと考えている。ただ、平日は清掃車の往来があることから、設営と撤収作業はフェア当日に行わなければならないため、あまりイベント時間を延長することはできない。

A委員 : イベント内容がマンネリ化しているとのことだが、変更するとしたらどのイベントを入れ替えられるのか。

リサイクル清掃課：フェアには、清掃関連事業者や地元自治町会等の団体に参加いただいているため、区だけでは考えられない部分もある。そのため、具体的な入れ替えの想定はしていない。

A委員：フェア当日の時間的な制約もあり、これ以上イベントを増やすのも厳しい印象である。また、関連団体との関係から、イベントの入れ替えもなかなか難しいのではないかと。そのため、区として力を入れてPRしていきたい内容を、メリハリをつけて実施してみてもどうか。フリーマーケットとまだまだ使える物展示抽選会以外に、どのように周知し、集客するかが課題になってくるであろう。

B委員：模擬ごみの積み込み体験ができるスケルトン清掃車をPRに活用してはどうか。スケルトン清掃車での体験は、他のイベントでも可能なのか。

リサイクル清掃課：地域のまつりや保育園等での出前講座で体験ができる。ご要望があれば、どこでも伺うことができる。

B委員：工場見学で何が見学できるのかを記載した見学工程のパンフレットは用意しているのか。

リサイクル清掃課：ご用意はしていない。普段見学できない場所を見学できるのは、本フェアのウリではある。また、見学することで、工場に愛着を持ってもらえるのではないかと考えている。

D委員：工場見学は、本フェアの特色であり、工場見学をすることでごみ分別の意識向上にもつながると考える。

4 その他

(事務局より事務連絡)

5 閉会